

**桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針に関する保護者説明会
(黒保根学園校区)の概要について**

○日 時 令和5年8月8日(火) 午後6時30分～午後7時10分

○場 所 黒保根学園 3階 プレイルーム

○参加者 【保護者】 8名 【報道機関】 なし

○質疑応答

・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発 言 者	発 言 内 容
保護者	<p>7年生に上がるタイミングで違う学校に移動する子がパラパラいるなどということを感じているんですけども、それがどんどん加速していくのではないかなという感じも見られるんですが、その点について、教育委員会の方で検討だったり、考えていることであったり、何かありますでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>通常の学校ですと、6年生と中学生ということで、区切りということがより意識される年代なのかなと思います。黒保根学園では、9年間の教育課程を見据え、1年生から9年生まで連続したその学習過程、それから教育課程を組んで、子どもたちにしっかりどんな力をつけたらいいのかということを考えながら、教育課程を組んでいるという特徴がございます。そういう中で連続性を考えると、子どもたちに無理がないような形で、7年生を迎えていただくことが大事なことであると思います。</p> <p>今後とも、6年生から7年生に上がる部分で、円滑に移行できるよう、学校とも連絡を取りながら、工夫してまいりたいと思います。</p>
保護者	<p>ちょっとお聞きしたいんですけど、メリットを色々とお話しされていて、デメリットとかも色々聞けたらなと思いました。あと、児童のクラス編制についての記載はありましたが、先生方の配置についての記載はなかったので、先生方の体制はどのようになるのかということも聞けたらなと思うんですけど。</p>
事務局 (教育未来室長)	<p>学校規模が小規模化している際の課題としましては、クラス替えができないで人間関係が固定化しやすくなるという点、児童生徒が集団の中で切磋琢磨しながら学んだり、社会性を高めたりすることが難しくなるという点、中学校の部活動の種類が限定されてしまうという点、配置される教職員が少なくなり、教職員1人当たり校務負担が増えるため、結果的に児童生徒に向き合う時間が少なくなってしまうという点、教員同士での指導技術の伝達が難しくなってしまうという点、そして学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難になるという点などが挙げられます。</p> <p>小規模校にも確かに良いところがありますが、一方で課題もありますので、現在、各学校では、課題解決のため、大変な努力をいただいているところであります。そのため、課題の解決を容易にしていくなためにも、一定の学校規模は必要であるという結論を審議会からいただいたところであります。</p>

発 言 者	発 言 内 容
事務局 (学校教育課長)	<p>教職員の数につきましては、クラス数によって配当が決定します。これは、桐生市が決めるものではなく、群馬県が基準に基づき決めるものであり、クラス数によって、教職員の人数配当が決まっています。</p> <p>通常、小学校だけであれば、それだけ限られた先生方の配置ということになるわけですが、本校では義務教育学校ということですので、7年、8年、9年の後期課程の部分の先生方も配当されますので、そこで、先生方の人数が確保されるわけです。そのような中で、前期課程の児童からも、色々な教科の専門性を生かした教科担任制により、専門性を生かした授業が受けられるというメリットがあります。</p>